

広報かしわが
リニューアル!

暑中見舞い申し上げます

元プロ車いすテニスプレーヤー

国枝慎吾

“最強”のその先へ

【注目情報】

P10 8月6日(日)が投票日 柏市議会議員一般選挙

P16 広報かしわに関するアンケートにご協力を



つづくも、
つなぐ。

柏の木が、つぎの若い芽にバトンを渡していくように。

みんなで、柏をつないでいこう。

これまで、しなやかに変わってきたように。

つづくために、私たちにできることがある。

ひとりひとりの、あしたをよくする知恵と工夫で。

柏市は、つづくをつなぐ、まちになります。

#02「つづくを、つなぐ。」かしわスナップ

「名戸ヶ谷ビオトープを育てる会」会長 小笠原智さん(写真左)が守りつけ、
未来へつないでいきたい柏の風景とは。インタビュー記事はこちらから。




柏市
KASHIWA CITY

CONTENTS ～目次～

4 特集

元プロ車いすテニスプレーヤー

国枝慎吾 “最強”のその先へ

10 **Pick Up** ～市の新しい情報などをお知らせします～

9月から新型コロナワクチンの秋開始接種が始まります／

8月6日(日)が投票日 柏市議会議員一般選挙／令和6年4月採用 市の職員を募集／

低所得世帯に1世帯当たり3万円の給付金を支給／放射線対策NEWS ほか

14 **Information** ～情報コーナー～

ファミリかしわ・柏マルイの設備点検による施設の休館／防災行政無線の試験放送／

個人事業税の納付を／児童扶養手当の現況届の提出を／子どもスペシャル

【連載】カシワ★ナンバーLABO／団体・サークルの催し／サークル会員募集／市民の相談室 ほか

30 【連載】潜入!! 工事現場 **途chu**アフター

第4回 田中北小学校「やすらぎの森」

31 **Kashiwa Photo Diary** ～まちの出来事を写真とともに～

柏レイソルのゴールで先制も負けられない戦いはドロー決着／

これからの柏のまちづくりの合言葉「つづくを、つなぐ。」が柏駅前に登場 ほか

32 【連載】かしわ愛を込めて **ふるさと** 産品お届け便

第4回 おしりに優しいクッション「楽じ朗君」

市長の スマイル通信

vol.19

「柏から世界へ」を体現
市民の心に永遠に残したい
国枝さんのレガシー

国枝さんは柏市出身で、テニス四大大会制覇とパラリンピック金メダル獲得を含む生涯ゴールデンスラム達成など前人未到の偉業を成し遂げられました。今年1月に世界ランキング1位のまま惜しまれつつ引退。その功績がたたえられ、パラアスリートとして初の国民栄誉賞を受賞されました。元々野球少年だった国枝さん。9歳の時、脊髄の病気で車いす生活になり、大好きな野球ができなくなることに…。そんな少年の人生を変えたのが11歳で出会った車いすテニスでした。それからおよそ30年、「俺は最強だ」と自分を奮い立たせ、車いすテニスの頂点に立ち続けた陰には、病気やけがと向き合う苦しい時期があったといえます。度重なるけがや襲いかかる重圧を乗り越え、自らと戦い続けてきたその姿は多くの市民に勇気と夢を与えてくれました。車いすテニスを通じ、誰もがその人らしく活躍できる社会の実現に向けて国枝さんが果たした輝かしい功績。私たちの心を動かしたそのレガシーは、市民の心に永遠に残り、次の世代へ継承されるはず。それこそが、いま私たちの目指す「つづくまち・柏」の実現につながると思っています。国枝さんありがとう。

柏市長

太田和美



はがき・ファクスなどの記入内容

①希望する講座・催し名 ②郵便番号・住所 ③氏名(ふりがな) ④年齢 ⑤電話番号※電話が困難な場合はファクス番号⑥(往復はがきの場合) 返信面の宛先

掲載情報の
見方

時=とき 所=場所 対=対象 定=定員 内=内容 講=講師 費=費用 持=持ち物 申=申し込み 交=交通 他=その他
問=問い合わせ ●費用で特に記載のないものは無料 ●対象や定員に制限のないものは、どなたでも参加可

柏市独占インタビュー

元プロ車いすテニスプレーヤー

国枝慎吾

“最強”のその先へ

“俺は最強だ！”

これほどこの言葉が似合う人はいるでしょうか
プロ車いすテニスプレーヤーが誰も成し得なかった
テニス四大大会車いす部門で
男子世界歴代最多となる計50回の優勝

12歳でラケットを手にしたあの日から
国内のみならず世界中に勇気と感動を与えた
柏市出身・国枝慎吾さん

最強を貫き続けた競技人生と引退後の目標とは――

Beyond the strongest

国枝さんは柏市立増尾西小学校出身。9歳の時に突然脊髄の病気を患い、車いす生活となりました。体を動かすことが好きだった彼は、車いすバスケットボールができるチームを探しましたが見つからず、母の勧めで小学6年生の時に訪れた吉田記念テニス研修センター（花野井）で車いすテニスに出会います。当時は、国内で車いすテニスができる環境が多くはありませんでしたが、地元柏市にあったこのテニスクラブと、車いすテニスとの出会いがその後の人生に大きな影響を与えます。

麗澤高等学校に進学すると、1年生の時に初めての海外遠征を経験。当時車いすテニスで世界トップクラスの実力を持ったリッキー・モーリエさんのプレーに感銘を受け、明確に「この競技で頂点を目指したい」という思いが強くなります。

そして、2004年に開催されたアテネパラリンピックでは、その才能を発揮しダブルスでの金メダルを獲得します。

その後もテニス四大大会車いす部門で、男子世界歴代最多となるシングルス28回、ダブルス22回の優勝。パラリンピックでは、金メダルをシングルスで3個、ダブルスで1個獲得。5大会連続でメダルを獲得し生涯ゴールデンスラムを達成するなど、不屈

世界で最も強くあることを
貫き続けた27年間――



「挫折を味わったからこそ
東京パラリンピックの金メダルがあつたと思います」

写真:SportsPressJ/P/アフロ

profile

国枝 慎吾 (くにえだ しんご)

柏市出身

1984(昭和59)年2月21日生まれ(39歳)

元プロ車いすテニスプレーヤー

パラリンピックのシングルスは2008年北京、2012年ロンドン、2021年東京の3大会で金メダルを獲得

四大大会シングルスは通算28度優勝

全ての四大大会とパラリンピックを制覇する生涯ゴールデン Slam を達成

※テニス四大大会とは、オーストラリア・フランス・イギリス・アメリカの4カ国で開催される世界最大規模の大会のこと

のレジェンドとして27年の競技人生を駆け抜け、世界ランキング1位のまま現役を引退しました。
絶対王者と呼ばれた英雄の競技への向き合い方や生き様、今後の目標について取材しました。

国枝慎吾 栄光の軌跡

Shingo Kunieda's
History

1984年

千葉県に生まれる

1993年

9歳の時に脊髄の病気を患い車いす生活となる

2003年

麗澤大学へ進学後、ワールドチームカップに出場し、日本チームの初優勝に大きく貢献

2008年

北京パラリンピックに出場。男子シングルスで金メダル、齋田選手と組んだダブルスで銅メダルを獲得

2012年

ロンドンパラリンピックに出場。男子シングルス2連覇となる金メダルを獲得

柏市へ転居。その後、増尾西小学校、土中学校、麗澤高等学校、麗澤大学と学生生活を柏市で過ごす

母の勧めで小学6年生の時に吉田記念テニス研修センターで車いすテニスを始める

1987年

1995年

アテネパラリンピックに出場。齋田選手と組んだダブルスで金メダルを獲得。麗澤大学卒業後は、大学の職員として働きながら大会に出場する

日本の車いすテニス選手としては初となるプロ選手へ転向

2004年

2009年



写真：読売新聞/アフロ



©吉田記念テニス研修センター

from teacher & friend

「原点となった学生生活」



麗澤高等学校時代の担任 森川嘉之さん(左)、友人 濱本隆利さん

森川さん 担任をしていた高校1年生の頃から、彼は海外のツアーを回っていました。そこで世界トップクラスの選手たちのプレーを見たことで目標が明確になったと、夏休み明けに目を輝かせて話してくれたことを思い出します。どんどん強くなって世界へ羽ばたく姿がとても頼もしかったですね。

濱本さん 彼とは同学年で、けがで苦しんでいるとニュースで知り、学校で会った時に「けがは大丈夫？」と声を掛けました。でも彼は「大丈夫、大丈夫」と明るく話してくれました。とてもつらかったはずなのにそれを周りには見せない。きつと表には見えないところでたくさん闘っていたんだと思います。今の彼につながる心の強さを感じました。

「勝ちにこだわる
熱心な研究者」



パラリンピックを
共に戦った
ダブルスのパートナー
齋田悟司選手

彼は強くなることに本当に貪欲でした。世界で活躍する人を見て、自分がどうしたらそうなるのかを常に考えていました。出会ったのは彼が学生の時で、当時は体もそんなに大きいわけではなかったですが、車いすさばきは既に長けていましたね。そして、彼は普段おほかただにテニスに対してはとてもストイック。年齢は私よりも1回り若いですが、同じ車いすテニス選手として尊敬するところでもありました。

そんな彼にも無邪気な一面があつて、中学生の頃は遠征での宿泊施設で真剣にゲーム機を楽しんでいましたね。周りに大人が多い環境だったので、そこは彼の子どもらしさを感じさせてくれる部分でもありました。

2016年



写真:アフロススポーツ

右手の手術による不調に悩まされる。リオデジャネイロパラリンピックではシングルス3連覇を狙ったが準々決勝で敗れベスト8に

2022年



写真:Colorsport/アフロ

ウィンブルドン選手権で初優勝を果たし、四大大会全制覇とパラリンピック金メダルを合わせた「生涯ゴールデンスラム」を達成

「もう十分やり切った」として世界ランキング1位のまま現役を引退。パラスポーツ選手、テニス選手で初となる国民栄誉賞を受賞

2023年



東京パラリンピックに出場。日本選手団主将として挑んだ5度目のパラリンピックで、シングルス3つ目の金メダルを獲得

2021年



写真:青木紘二/アフロススポーツ

「彼に三日坊主
という言葉はない」



テニスクラブ・吉田記念
テニス研修センター
代表理事 吉田好彦さん

慎吾が車いすテニスを始めた当時は、車いすテニスというスポーツが世間に認知されていない時代でした。ダブルスで共に戦った齋田さんをはじめとする、年の離れた車いすテニスの先輩たちに支えられながら成長する彼の姿を近くで見ってきました。世界を舞台に戦う選手になったのは、近くでそういった先輩の活躍や練習する姿を見ることができたのも大きかったのかな、と今となっては思います。

あと、彼には諦めるという選択肢がないんです。三日坊主ってよく聞く言葉ですけど、彼は一度決めたらそういうのは一切ない。真っ向から闘っていくんですよね。学生の頃から慎吾を見ていますが、そこはブレたことがなかったです。

「最強」に隠された 弱気な自分との闘い

「俺は最強だ」

国枝さんが幾度となく自分に投げかけてきた言葉。彼の代名詞となったこの言葉の誕生は2006年にかかのぼります。長時間にわたる試合中はどうしても弱気な自分が出てきてしまう。どうしたらよいかという国枝さんの問いにメンタルトレーナーは「最強になりたい」ではなく、「最強だ」と断言するように伝えました。

それから毎日鏡に映る自分へ向かってこの言葉を投げかけ続け、試合前や試合中、弱気になってしまったときはいつでもこの言葉で自身を奮い立たせてきました。その後、わずか10カ月で世界ランキング1位へ上り詰めます。

「常に『俺は最強』と思っているわけではなく、長い試合時間の中で弱気になった時の自分を打ち破る、強気の自分に戻してくれる、そんな言葉でした」

人との出会い、試合全てが 僕のターニングポイント

「コートとの出会いもそうだし、それぞれの大会も全て、僕のターニングポイントでした」

アテネパラリンピック出場後は年

next stage

人生の 次のステージへ

世界ランキング1位のまま現役を引退した国枝さん。27年間の競技生活と今後の目標についてお話を聞きました。

間数百万円に及ぶ遠征費の負担を理由に引退を考へるも、麗澤大学の職員として働き、大学などのサポートを得ながらテニスを続けるという決断に至った国枝さん。これだけに限らず、パラリンピック一つとっても北京・ロンドン・リオデジャネイロ・東京大会それぞれにドラマがあったといえます。それらの記憶はかけがえのない1ページとして国枝さんの思い出のアルバムに刻まれています。

王者から挑戦者へ陥落 挫折がつなげた金メダル

「挫折を味わったことでテニスに対する考え方が変わりました」

国枝さんがそう振り返ったのは

2016年のリオデジャネイロ大会。前回大会の王者として金メダルが期待される中迎えたパラリンピック。大会前に右肘関節の手術を受けた後も痛みは引かず、痛み止めの注射を打って試合に出場していました。決して万全といえるコンディションではなく、惜しくも準々決勝敗退という結果に。常に勝ち続けていた王者から挑戦者となった国枝さんはこの時、引退を覚悟したと言います。

「逆に言えばこの挫折が東京パラリンピックの金メダルにつながったなとも思います。その前のキャリアの方が長いはずなのに、実際に強く記憶に残っているのは2016年以降の5年間。それぐらい濃い5年だったので、あそこで一回挫折を味わったことで、今度は這い上がるだけだ、とテニスに対しての考え方もずいぶん変わりましたね。挑戦者に落ちたことで何でもチャレンジするようになった。良い経験ができたなというふうに、こうして振り返ってみると本当によく思います」

挫折すらプラスの力に変えていく。そんな姿勢が数々の偉業に結びついているのかもしれない。

次の目標を見つける難しさと 楽しさ。両方を感じています

「アスリートとしての生活は、次の試

合というものを目標に自分の気持ち上げていくっていう日常の繰り返しだったんですけど、引退後の目標はまだ探している途中ですね」

アスリートとして長く生活を送り、引退後の明確な目標はまだないものの、趣味のバスケットボールで汗を流すなど、引退後もスポーツマンとしての一面が垣間見られます。次の人生の目標を見つける難しさと、見つけにいく楽しさの両方を感じながら、さまざまな人に会って刺激を受けたいと語ってくれた国枝さん。

引退してもなお、高みを目指し続ける国枝さんの次なる目標は海外留学を経験し、仕事の幅を広げること。成長に終わりはありません。





「俺は最強だ」は
弱気になったとき強気の自分に戻してくれる、
そんな言葉でした



編集後記

国枝さんの現役引退に 思いを寄せて

歴史的な記録を打ち出した帰路、
成績に伸び悩んだ帰路、ふるさと
の景色はどう映ったのでしょうか――
原点となった小・中学校、高等
学校、大学、テニスクラブを訪ね
て当時の国枝さんに思いを巡らせる。
恩師たちに話を伺うと一様に聞

こえてきたのは国枝さんの「芯の
強さ」。決めたことを一貫してやり
抜く姿がそこにはありました。そ
の努力は単に成績という数字だけ
で表せるようなものではなく、あ
らゆる局面で自分と向き合い、「最
強の俺」を作り上げてきた国枝さ
んの葛藤は計り知れませんが、
国枝慎吾さん、27年間の現役生
活お疲れさまでした。今後の活躍
を期待しています。

News!

ふるさと柏市を世界へPR 「柏つなぐ大使」第1号に就任

ふるさと柏市をPRするため、
国枝さんが柏つなぐ大使に就任しました。



問 広報広聴課 ☎7167-1175 ・ FAX 7166-8289